

令和8年度かほく市デジタル田園都市構想総合戦略推進会議

議 事 概 要

日 時：令和8年8月21日（金）9:57～10:57

場 所：かほく市役所3階 302会議室

1. 開会

2. あいさつ

3. 議事

(1) かほく市デジタル田園都市構想総合戦略の評価等について

4. 事務連絡

5. 閉会

委 員 名 簿				
整理 番号	選出組織・団体	職	氏名	出欠
1	かほく市商工会	会長	南 春夫	出
2	石川かほく農業協同組合	代表理事専務	村井 一宏	出
3	石川県立看護大学	教授兼 DX 推進委員会 委員長兼情報システム 委員会委員長	小林 宏光	出
4	内灘町教育委員会	学校教育課 管理主事	谷内 正樹	出
5	かほく市町会区長会連合会	会長	釜田 伸一郎	出
6	かほく市女性協議会	会長	松村 千恵	出
7	株式会社 北國銀行	公務部部長	河合 裕一	欠
8	金沢公共職業安定所	所長	今町 聡	出
9	株式会社 P F U	執行役員	増田 稔	出
10	かほく市社会福祉協議会	常務理事	越井 謙一	出
11	かほく市	副市長	竹本 重久	出

1. 開会

2. あいさつ

3. 議事

(1) かほく市デジタル田園都市構想総合戦略の評価等について

●事務局

かほく市デジタル田園都市構想総合戦略の評価等について、会議資料に沿って説明。

【質疑・意見交換等】

○委 員

全体として80%の達成率だったが、個々の事業で未達成の数値達成度について、事業No. 1：戦略的な企業誘致の推進を例にすると目標値：3に対して実績値：1となっているが、例えば目標値：300に対して実績値：100とでは、達成比率は一緒だが意味が異なる考える。そうした事業毎目標値の数字的な特性の違いがあると考え、実態としては80%よりもう少し良い結果なのではないかという印象を受けたがいかがか。

●事務局

それぞれに事業特性がある中、KPIの捉え方も、実際にばらつきやチャレンジングな要素もある。各部局に対してKPIを設定させていただいたが、世界的な事情や、例えば参加者数をKPIにしている場合は天候の問題もある等、設定にも難しさはあると認識している。ただ現行の総合戦略内のKPIは来年度まで継続するものであるため、何とか努力して達成に近付けられるよう、事務局としても頑張っていきたい。

○委 員

事業No. 1：戦略的な企業誘致の推進について、企業誘致が大分進んでいる印象がある中、KPI②：雇用促進助成制度による市内在住者新規雇用者の未達成であった要因があれば教えてほしい。

●事務局

まずKPI①：助成制度活用件数について、前期総合戦略では年間目標値：2件に対し1件増やして、目標値：3件としている。近年の原材料高騰や、工期の関係等により、単年度で見ると実績値：1件で未達成となっており、市内新規雇用数も1件の企業実績に対し4名でKPI②：市内在住者新規雇用数も未達成となっている。ただ、これまで制度上は市内在住者を企業立地助成制度活用の必須要件としていなかったところ、令和9年度改正で市内在住者の新規雇用を必須要件とするため、これに伴いKPI②は少し数字が跳ね上がると想定している。

○委 員

市内小中学校体育館の冷暖房設置について、県内で設置率100%となっているのがかほく市のみと最近報道されていた。やはりかほく市は、そうした物的施策だけではなく相談員や学校コーディネーターなどの人的施策も含めて教育に非常に力を入れていることがよく分かった。また高校生の通学定期補助や各学校で特色を出せるコミュニティスクール事業などもあり、それら教育の充実が移住定住の1つの大きな柱になるのではとも思うので、教育の充実についても積極的にPR機会を持つべきと思う。

●事務局

教育的なPRは難しいところもあるが、市のPRとしてシティプロモーション事業の中で、かほく市の様々な情報をSNS等で配信していることもあり、今後ともよりよいPR活動ができればと考えている。

○委員

令和6年能登半島地震を踏まえ、防災・減災分野でデータの活用や見直し等による新たな事業展開は検討しているか。

●事務局

現在、防災計画の全面改定を進めており、その1つとして、デジタル化ということで、避難所の出入管理をデジタル化しようと取組んでいる。

○委員

かほく市で工業団地を造成し、工場誘致をする構想があれば教えてほしい。

●事務局

工業団地の計画自体は具体的なものは無いが、昨年度策定した総合計画において、エリアごとに将来都市構造を位置付けた「ゾーニング」を第一段階として行っている。かほく市では民間が有利な部分は民間で磨いていただきながら、例えば道路などの周辺インフラの支援といった部分を市がしっかりサポートするという立場で進めている。ゾーニングは時代の変化によって見直すことや、場合によっては工業団地を市直轄で進め、誘致を行うという検討も必要と思っている。

○委員

かほく市の人口推移について、他市町と比べても伸びているが、どのようなアクションをして、こうした人口推移が確保できているのか。

●事務局

現在かほく市は11年連続で人口が増えている。新しく入ってこられる方や現在住んでおられる方に対しても様々な手厚い移住定住施策を行っている。ただこれからの少子化や人口減少であるというものに対しても、やはり先手を打ちながら今後の施策を考えていかなければならない状況であると捉えている。そのような中で今後も更に人口が増えるような施策を引き続き取り組んでいきたい。

●事務局

補足として、人口増加の前は、かほく市でも人口はずっと減っていた。人口減に危機感を抱いたことから、平成22年頃に若手職員中心のプロジェクトを組み、どうやったら人口を増やして

いけるかを考えた結果、1つ目の柱として定住促進策として、家の何らかの支援が欲しいという意見が出た。それが事業評価の指標の中にもある若者マイホーム取得奨励金や新婚さん住まい応援事業補助金である。それに加え、子育て支援環境の充実を図り、高校生の通学定期補助など切れ目のない支援に併せて取り組んだ結果が、11年連続の人口増に結びついている。

○委員

事業No. 12：スポーツによる賑わいの創出について、昨シーズンはバレーボールSVリーグ女子のPFUブルーキャッツ石川かほくの成績も良かった。今年も活躍が期待されるが、こうしたスポーツ施策を更に加速させるために、プラスアルファでやろうとしてるアイデアがあれば教えていただきたい。

●事務局

プロスポーツによる賑わいについては、現行の総合戦略で初めて具体的施策となっている。PFUブルーキャッツ石川かほくとは、2年前にまちの賑わい創出のための包括連携協定をしている。プロスポーツの力でまちの賑わいを創出するというプログラムの中で、1つずつ取り組んだことが結果につながっている。PFUブルーキャッツ石川かほくのホームゲームの来場者は家族連れが多く、1グループ当たりの人数が3～4人という多人数観戦に特徴がある。家族連れや若い世代が多く試合を見に来るといった部分にもしっかりスポットを当て、3年目となる2026～2027シーズンも一緒に取り組んでいく。

○委員

事業No. 19：地域DXによる地域づくりと人材育成の推進について、プログラミング教室が増加見込に対し未達に終わったことに対して、課題と打ち手があれば教えてほしい。

●事務局

近隣の市町や民間団体が新たにプログラミング教室をやっている状況で、非常にお客様の選択肢が増えたところが1つの未達要因である。もう少しかほく市のプログラムの特徴も整理しながら、改めて取り組んでいく必要があると思っている。

○委員

基本目標3：若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶えるに関連して、移住や育休明けの仕事復帰により子どもをこども園に入園希望を出したものの、希望するこども園に入れないケースが増えている状況はないか。何か対策は検討しているか。

●事務局

こども園の入園に関しては、どうしても年度の途中入園となると、兄弟姉妹で一つの園ではなく別の園にバラバラで入園いただくケースがあることについては、実際の問題として捉えている。希望するこども園に入れないケースが増えていかないよう、関係各園との検討・準備も進めている。

○委員

事務局の補足になるが、人口は最近になってまた急激に増えている。移住定住施策や不妊治療の全額補助、学校給食の無償化や、高校の通学定期補助など、できることはすべてやっている

ということが要因と考えている。それと大きい民間商業施設があることは、移住の大きな要素になっている。それに加え、確固たる話ではないものの、金沢市で家を建てようと思えば夫婦で目いっぱい住宅ローンを借りても、物価高もあり土地と家を金沢市内で求める金額はなかなか用意が難しいこともあり、それで交通も環境も良い場所はということで、ちょうど良い場所としてかほく市を選んでいることが、近年急激に人口が増えている要因ではないかと考えている。これまでかほく市内で相対的に家の建築が少なかった地域でも、空き区画にみるみる家が建っている。

そうした状況になると、次はこども園や学童、学校の教室のキャパシティの問題が出てくる。学校の増築など対応を行っているが、こども園についても最短でどのような対応ができるかということとは検討を行っている。

○委 員

事業No. 30：交流ゾーンのにぎわい創出について、ゾーン造成よりも、個々の建物、例えば道の駅高松や民間商業施設、観光施設、哲学館、看護大学の周辺など、個々の場所における賑わい創出を計画すればどうか。例えば道の駅の増築を図れないか、看護大学周辺の住宅地にふさわしいような店舗を増やして賑わい創出を図れないかといった具合である。また総合体育館などでの年間スケジュールを市でしっかり把握してPRしてほしい。かほくも、子供たちに向けて楽しい施設だよというPRもより必要じゃないかと思う。目標値が達成されたから良いということではなく、個々の建物がより発展していくようにPRしてほしい。

●事務局

簡単な問題ではないが、市としても関係団体と連携しながら、よりよいまちづくりに資することを目標として頑張っていきたい。

○委 員

事業No. 1：戦略的な企業誘致の推進について、今後の見通しは。また、業種や従業員規模の傾向、石川県内外どちらからかの進出が多いかも教えてほしい。

●事務局

令和8年度については現在3～4件程度を見込んでいる。令和9年度についても同等の件数を見込んでおり、達成率は若干上がっていくと考えている。業種は製造業が多く、従業員規模はそれほど大きくない。進出元は県内が多い。

○委 員

企業誘致のKPIは、企業件数だけでなく、目標が雇用創出ということであれば、事業規模が小さい企業が3件よりも、大きい企業が1件の方が良いのではという考え方もあるのでは、という指摘だったかと思う。

○委 員

若い世代が定住してくれるのはありがたいが、その地域の文化・体育行事、その他懇親会や、地区ごとの祭礼の参加が非常に少なくなっている。住んでいた方と転入してこられた方のコミュニケーションも取りづらく悩んでいる地区も多いと聞く。また、最近あちこちで災害があって色々な避難訓練等を行っているわけだが、その避難訓練にもなかなか参加をしてくれないという

ような話題が出ている。何か対策のようなものがあれば教えていただきたい。

●事務局

私の地元の話になるが、若い世代が入ってこない、参加しないということで、区の未来を考える組織を今年発足し、どのように地域コミュニティを高めていくか検討を開始した。具体的な内容としては、祭礼も見直して、若い人の加入をどんどん進めることを今期やろうというのが1つ。もう1つは、役員のなり手がいないので、役員をどのように決めるかということルール化しようなどを検討すべく動いている。行政としても次期総合戦略の中で、地域コミュニティをどのように高めるか、テーマとして入れていかなければならないとも考えている。

○委員

人口流入があるところは、コミュニケーションの問題というのはどこでも生じてるみたいだが、地域コミュニティの在り方をどう持続していくかというところは、地域の問題としては非常に大きいと思う。

○委員

総括として、仮に目標達成が100%だったとしても、逆にこれは目標設定が緩められたのでは、という考え方もできる。昨年度、一部に目標値を達成できなかったという部分もあるわけだが、それはある種チャレンジングな、挑戦的な目標設定をしていたというようにポジティブに解釈することもできるというようにも思う。今後も100%にすることを目標にすると、目標設定を低めにすることにもなるので、ぜひ市として、多少チャレンジングな目標設定をいただくということが、健全な手法なのではないか。

4. 事務連絡

5. 閉会

以上